

10月5日（水）

大阪プロモーションセミナー

10月5日の午前中は大阪プロモーションセミナーに参加した。このセミナーは、大阪市のビジネスの魅力「大阪・関西万博とその先へ」をテーマに、大阪・日本とのビジネスに関心のある企業を対象として、イタリアの商工会議所を基盤としたビジネス支援機関である「プロモス・イタリア」と本市が共催したものである。大阪、及び日本への投資や進出などに関心のある企業など約90名が参加した。

会場のパラッツォ・ギーレコンサルティ1階ホールに到着後、まず高橋副市長、大橋議長から挨拶を行った。



プロモーションセミナーの様子

【高橋副市長 挨拶要旨】

本市とミラノ市は世界的なビジネス拠点及び観光都市であり、また伝統文化を尊重するところや食文化など、多くの共通点が見られる。加えて両市は、万博の開催都市として世界の人々を魅了するという共通点もある。

このように、共通点の多い両市であるが、まだまだ知られていない部分も多く存在するため、本日は大阪プロモーションセミナー及びネットワーкреセプションを開催し、多くの方に大阪の魅力とビジネスポテンシャルを知っていただけたらと思う。本日のセミナーをきっかけとして、一人でも多くの方が大阪に興味を持ち、実際に来阪していただけることを期待している。



高橋副市長 挨拶

【大橋議長 挨拶要旨】

本日のプロモーションセミナー開催にあたり、たくさんの方々にお越しいただいたことに感謝するとともに、開催に御尽力をいただいた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。副市長の挨拶にもあったように、大阪は経済・歴史・文化など様々な分野で非常に魅力的な都市である。大阪市会でも、安全・安心で住みやすいまちづくりとあわせて、経済、観光、文化など様々な面での都市力の向上のため議論しているところである。この機会にぜひ大阪をより知っていただくとともに、このあと予定しているレセプションでは、お互いの交流を深めていただき、両市の絆を一層深いものとして、ビジネス交流の促進などに繋げていただければと思う。



大橋議長 挨拶

続いてアレッシア・カッペリーノ ミラノ評議員、雨宮総領事、ベガ プロモスイタリア チーフ・ストラテジー・オフィサーから御挨拶をいただいた。

その後、高橋副市長から「大阪市の都市魅力とビジネス環境について」のプレゼンテーションを行い、続いてO-BIC(大阪ビジネス投資センター)清水事務局長からO-BICの取り組み「Pronti per Osaka? (大阪への投資の準備はできていますか?)」、ジェトロミラノ三宅所長から「ジェトロ対日投資ビジネスサポートセンター」について、それぞれプレゼンいただき、その後質疑応答が行われた。

【高橋副市長 プレゼン要旨】

本日は3つのテーマについてお話しさせていただきます。

まず、1つめは大阪・関西地方について紹介する。大阪は、本州の中心に位置し、世界遺産登録された百舌鳥古市古墳群など多数の観光拠点があり、さらに大阪の周りにも京都や奈良など魅力的な観光都市が複数ある。またスポーツについては、プロ野球チームのオリックスや、プロサッカーチームのセレッソ大阪の拠点となっているほか、さまざまなスポーツが盛んであり、有名選手も多く輩出している。経済規模については、関西の総生産はスイスと同規模の783億ユーロで、市場規模として十分な大きさが



高橋副市長 プレゼンの様子

あり、あらゆるビジネスのチャンスがある。パナソニックやサントリーなど、多くの世界的な企業が大阪を発祥地としている。

次に、大阪の革新力、イノベーションについてであるが、例えば世界中で有名な大阪発祥のものといえば、インスタントラーメンや回転ずしなどがあり、これらは大阪人のチャレンジ精神から生まれた。このような大阪人のDNAを現在も絶やすことなくイノベーション創出を進めている。大阪駅の北側に「大阪イノベーションハブ」を本市が設置し、継続的にイノベーションが創出される環境、いわゆるイノベーションエコシステムを構築する拠点となっている。

最後に、大阪で現在進行中のプロジェクトを紹介する。

まず、沿岸域では、夢洲地区において 2025 年に大阪・関西万博を開催予定であり、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界の社会経済の問題を解決し、世界の人々が健康に持続的に暮らすことができる提案を行っていく。万博では、自動走行する乗り物に乗りながら最先端の医療ケアや食を提供する仕掛けを搭載した大阪パビリオンの出展も予定している。皆様もぜひ万博に足を運んでいただきたい。



高橋副市長 プレゼンの様子

他に、夢洲北部では世界水準のMICE機能やカジノ施設を含み、国際的なエンターテインメント機能を備えた施設の誘致を検討し、世界中の人々が集う都市を目指している。また、都心部のプロジェクトでは、西日本最大のターミナルであるJR大阪駅の北側にある「うめきたエリア」の再開発を進めており、日本初の公園や緑を生かした知的創造を実現する都市型イノベーション拠点の開発に取り組んでいる。さらに、大阪市は大阪府とともにアジア・世界の活力を呼び込み、世界に先駆けた取り組みで国際金融都市大阪を目指しており、海外金融系企業や外国人投資などの相談窓口をグランフロントに設置している。

以上、大阪の取り組みや、まちの魅力などを御紹介した。本セミナーへの参加を機に大阪進出に関心を持っていただき、今後も大阪市と引き続きつながりを持っていただくことを願う。

プロモーションセミナーでは、本市の都市魅力とビジネス環境、及び進出時のサポートについて、本市からだけでなくO-BICやジェトロミラノからもプレゼンいただくことにより、本市への投資・進出に関心がある企業等に広くアピールできた。

姉妹都市友好交流ネットワークレセプション

プロモーションセミナー終了後には、パ
ラッツォ・ギーレコンサルティ地下 1 階ホ
ールにて、参加者の交流の場として姉妹都
市交流ネットワークレセプションが開催さ
れた。

まず、高橋副市長、大橋議長より挨拶を
行った。



ネットワークレセプション会場

【高橋副市長 挨拶要旨】

ここからはネットワークレセプションとして、限ら
れた時間ではあるが、皆様と様々な交流ができればと
考えている。

セミナーで感じた疑問点や御意見など、御遠慮なく
お申し出いただき、忌憚のない意見交換ができればと
考えている。食事も御用意しているので、ゆっくりと
お寛ぎいただき、御参加いただいた方々同士のネット
ワークも築いていただければ幸いである。



高橋副市長 挨拶

【大橋議長 挨拶要旨】

本日のセミナー、そしてこのレセプションにより、
大阪市の環境や魅力について改めて御理解いただくと
ともに、本市とミラノ市の交流をさらに深め、それぞ
れの得意分野を生かした提携を行うなど、より一層良
好な関係を築いていくことになればと願っている。
2025 年には「大阪・関西万博」が開催されるので、ミ
ラノの皆様にもぜひ大阪にお越しいただき、活力あふ
れるその姿を目の当たりにしていただきたい。

それでは、本日御参加いただいた皆様方のますます
の御活躍と、両市の発展と繁栄を祈念し乾杯したいと思う。サルーテ！（乾杯）



大橋議長 乾杯の挨拶



ネットワークレセプションの様子



レセプション会場前にて

プロモーションセミナーに引き続き、ネットワークレセプションでは参加者と直接意見交換し、大阪・日本に関心がある方々と広くネットワークを構築することができた。

ミラノ万博跡地視察（アレクスポ社訪問）

午後からは、ミラノ国際博覧会の跡地の視察及び跡地再開発について、アレクスポ社との意見交換を行った。

アレクスポ社とは、ミラノ万博の開催地を取得するために 2011 年に設立された民間企業で、公共機関（イタリア政府、ロンバルディア州、ミラノ市、ミラノ博覧会財団など）が株の過半数を保有している。

ミラノ万博は、2015 年 5 月 1 日～10 月 31 日まで「食」をテーマに開催され、現在は、会場跡地の再開発についての検



アレクスポ社からの説明を受ける一行

討が進められている。その一つに、科学技術・ライフサイエンス分野の施設の集積するサイエンス・テクノロジー・パーク転換プロジェクトがあり、ライフサイエンス分野の研究拠点設立やミラノ国立大学のサイエンス学部の移転、新病院の建設などが進められている。

アレクスポ社に到着後、まず高橋副市長、大橋議長から挨拶を行った。

【高橋副市長 挨拶要旨】

ミラノ市訪問は、私にとっては2回目であり、長い歴史を背景に、近代的な建物が都市景観の美しさと調和し、まさに活気があふれていることに感銘を受けている。

本日は 2015 年に開催されたミラノ万博の跡地開発の現状を視察させていただき、2025 年に開催予定の大阪・関西万博跡地利用の参考にしたい。

M I N D (Milano Innovation District) と呼ばれるサイエンス・テクノロジー・パークへの転換にあたり、どのように研究拠点や病院を呼び込んだのか、また関係者間の利害調整など、課題とその解決策についてお伺いできればと考えている。

また、御苦労された点など実際の経験に基づいたアドバイスをいただければ大変ありがたく思う。

【大橋議長 挨拶要旨】

このたび、大阪とミラノの姉妹都市提携 40 周年を記念して、ミラノ市を訪問できたことは大変光栄である。

本日は、ミラノ万博の跡地開発の現状を視察させていただき、2025 年に開催される大阪・関西万博の跡地利用の参考にしたいと考えているので、よろしくお願いします。

次に、ミラノ万博跡地開発の現状と今後について説明を聴取した。

【アレクスポ社説明要旨】

ミラノ万博の敷地は、イタリアの全てのまちと新幹線で結ばれていることに加え、



高橋副市長 挨拶



大橋議長 挨拶

ミラノ市内までは地下鉄で 30 分、そして 3 つの空港が 1 時間以内の場所にあり、国内からも海外からも大変アクセスの良い場所にある。そのことが万博開催時だけでなく、万博開催後の跡地開発においても成功のための一番の条件になると考えている。また、跡地再開発を地元の方々が気持ちよく受け入れていただいたことも、このプロジェクトが成功する要因となる。

跡地活用を支える重要な 4 つの要素として①公共からの投資、②教育リサーチ、③市民を巻き込む要素、そして④民間への投資がある。今回のイノベーションにはこの 4 つの要素がなくてはならないものであり、また、その運営を行うトップリーダーが必要になる。

アレクスポ社は、国、ロンバルディア州、そしてミラノ市が一緒になって作り上げた会社であり、現在は、アレクスポ社がこの跡地の所有者となっている。

ミラノ万博が終わった後に土地を売却せず、引き続き運営することを決定したのは、万博のために行った多大な投資を回収するという目的がある。

跡地には国立ミラノ大学、健康研究施設、病院のグループ企業のガレアッツィ、また非営利企業のトリウルツァを誘致した。またレンドリースという民間の開発会社が跡地の南側に入っている。



アレクスポ社、レンドリース社からの説明

【レンドリース社 説明要旨】

レンドリース社は跡地再開発のマスタープランを手がけており、4 年前からアレクスポ社と一緒にこちらの開発を担当している。

レンドリース社はオーストラリアに本社を置くが、支社は世界中に点在しており、東京を含む特に大きな都市の再開発に関わっている。開発、建設、投資という大きな 3 つの柱の下で仕事を行っている。

この万博跡地の半分はレンドリース社が、そして残りの半分は個人や企業が出資を行い、このプロジェクトを進めている。

レンドリース社がこの場所に出資することを決めたポイントは、万博の建物が残っていること、そして万博が行われたことにより地元の皆様がこの場所をすでに知っている、訪れているという認知度の高さがあったことである。

その後、万博跡地開発についての意見交換を行い、現地の開発状況を視察し説明を受けた。



ミラノ万博のシンボル Tree of Life



現在の万博跡地



上：建設中の建物

左：旧イタリア館（レガシーとして残す予定）

ミラノ万博の跡地開発にかかる計画策定や現在の進捗状況の説明をアレクスポ社から聴取し、開発手法について意見交換を行ったことで、今後の大阪・関西万博の参考とすることができた。

以上で視察を終了し、全行程を終えた。

おわりに

今回、姉妹都市提携 40 周年を記念してミラノ市を訪問し、滞在 3 日間という非常に短い期間ではあったが、大阪・ミラノ両市の関係者の調整のおかげで充実した行程となり、表敬訪問、レセプション、視察などさまざまな形でたくさんの方たちと交流を深め、とても有意義な時間を過ごすことができた。

万博開催都市であるミラノ市との意見交換等を通じて、両市に共通する課題が見え、今後の参考とすることができた。また両市が交流することで互いに協力し補完しあえること、そしてコロナ禍で 1 年遅れの交流であったが両市の絆を再確認でき、今回の 40 周年記念事業がさらなる関係強化につながることを確信している。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行でお世話になった両市の関係者の皆様に心から御礼申し上げる。

